

# 校内研修計画

甲州市立菱山小学校

## 1 学校課題

本校の児童は、明るく素直な子どもたちである。児童会活動・学校行事などの体験的学習では、まじめに一生懸命に取り組もうとしている。普段の学習の様子でも、計算問題・漢字学習などを繰り返し学習することで、基礎・基本を身につけている児童が多い。家庭学習においても、自分の学年×10分を目安に毎日継続的に全校で取り組んでいる。このように児童たちは、与えられた課題に向かっては活動しているが、自分から進んで行くより、教師からの指示を受けて行くという、やや受け身的な傾向にある。自分から進んで自主的に取り組むように仕組む学び方の工夫が必要とされる。

また、昨年の研究より、算数科における問題解決的な学習において「活用する力」を育む授業作りを行ってきた。自分の考えを持ち、友だちと意見交換する中で、自分以外の友だちの考えに気づいたり、認め合ったりすることで、自分の思考を深める事を目標に行ってきた。しかし、話し合い活動が思うようにいかずに、多様な考え方を導き出すのが難しかった。また、教師が最後にまとめを言うことで子ども達の気づきや発見が十分に生かさないままに授業が終わってしまうことも見られた。その反省から、今年度は、児童の学び合いを教師が意図的に仕組み、児童一人ひとりに思考する力を深める指導過程の工夫や、発問の仕方などを研究していきたい。

自分の考えは持っているのだが、自分の考えや思ったことを友だちの前で発表するという主体的な態度に欠ける場面も見受けられる。考えをうまく伝えることができず、活発な意見交流があまり見られなかったのは、自分の考えに自信が持てなかったり、表現の仕方がよくわからなかったりするのも原因の一つであろう。甲州市の「確かな学力」に関するプロジェクトにおいて、学習集団作りに取り組んでいることを生かし、Q-Uの結果から、多様な意見を自由に言い合える集団作りも合わせて学んでいきたい。

以上のことから、学び合いを深め、思考力を深めるための学習過程の工夫や発問などの思考を深めるための指導法を研究し、併せて自分の思いを自由に発言できる学級作りを行ないたい。算数科を中心とした教育活動の場面で実践していきたい。

これら、地域・児童の実態をふまえ、学校教育目標に掲げた子ども像の具現化に向けて、様々な活動を通して子どもたちに多くの経験を積む中で、主題に迫りたい。

## 2 研究主題

主 題 「主体的に学習する児童の育成」

副主題 ～学び合いを通して、思考力を高める指導の工夫～

## 3 主題設定の理由

平成23年からの3年間の研究では、子どもたちに生きる力を育むために、知識・技能を習得し、これらを活用し課題を解決するために思考・判断・表現するため、各教科における言語活動の充実、特に算数科に焦点をあてて研究を進めてきた。

授業実践の中では、「活用する力」に焦点をあてた授業づくりによって、子どもたちは様々な既習事項を組み合わせて答えを導き出そうとする様子が見られた。多様な考え方や様々な解決法を見いだすような活動を要求する学習過程を設定することによって、子どもたちは新しい考え方の発見に向けて試行錯誤をしていた。また、子どもたちが発表したくなるような場を設定したり、興味関心が低下しないように効率的な表現方法や発表形態を工夫したりすることなどを通して、児童一人ひとりの学ぶ意欲を引き出す授業実践を全学年で取り組んでいった。その中で、既習の知識を活用して新しいことを考え出したり、分かりやすく表現したりすることを大切にする指導過程の工夫や、「線分図・数直線の指導の系統」に視点を向けた授業づくりを行ってきた。それを受けて今年度は、自分の考えを説明したり、友だちの考えを認めたりする学び合い・話し合いの活発な活動を意図的に仕組むことによって、主体的に学習し、思考力を高める手立てを追究していきたい。

さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとも連携し、「NRT」「Q-U」調査を活用して学力向上とともに学級集団づくりにも焦点をあてていきたい。

#### 4. 研究の具体的内容と方法

##### (1) 研究内容

- ・算数科の授業において、学び合いの仕方を工夫することができる学習過程を工夫し改善する。（特に上記の図での検討の場面）
- ・問題解決的な学習過程の中で、学び合い活動が活発になる発問・助言の仕方を考えていく。
- ・児童の実態を把握し、課題を明確にする。アンケートの作成をする。
- ・算数科における「話し合い（検討）」「思考力」についての理論研究を行い、共通理解のもとで具体的指導法を探る。
  - ・講師・助言者を招聘しての理論研究を行う。
  - ・授業実践と報告
  - ・授業研究による検証
  - ・先進校視察や実践，文献による学習
  - ・「低学年」「高学年」ブロックによる研究活動の実践
  - ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの随時リンクしながら校内研究を進める。（Q-Uについての学習会を実施する。）

##### (2) 研究方法

- ・低学年・高学年ブロックごとに指導法を研究し、それぞれ年1回の研究授業を行う。
- ・全職員で一人一実践による授業公開をし、互いに学び合う場を持つ。
- ・公開授業等に積極的に参加し、内容を還元する。
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの3つの柱【授業づくり・授業改善】【学級・集団づくり】 【保護者・地域との連帯】の各ブロック担当者を中心に校内研と連携していく。

#### 年間校内研修計画

研究主任 廣瀬 敦子

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	TC要請
「主体的に学習する児童の育成」 ～学び合いを通して、思考力を高める指導の工夫～	・校内研の運営について ・研究主題 研究内容 ・校内研の年間計画の決定 ・授業研究の内容と計画 ・児童の実態把握（Q-U検査・NRT検査）	研究主任  各ブロック		4月	
	・授業研究の計画 ・低高ブロック研究 ・学力向上の取り組み	研究主任 各ブロック		5月	
	・K13法の取り組み ・高学年授業案検討 ・研究授業	研究主任 研究主任 授業者	5学年	6月	○
	・低高ブロック研究（授業研究） ・実践授業研究	各ブロック		7月	
	・特別支援学習会 ・教育課程研究（還流）	特別支援教育担当		8月	
	・低学年ブロック研究授業 ・研究授業授業案検討 ・算数科研究授業	各ブロック 研究主任 授業者	1学年	10月	○
	・実践授業研究	授業者		12月	
	・低高ブロック研究（成果と課題）	各ブロック 研究主任		1月	
	・校内研究全体の成果と課題 ・実践授業研究	研究主任 授業者		2月	
	・次年度教育課程 ・研究紀要作成	教務主任 研究主任		3月	

